



WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会会報

No.58 December 10, 2016

- ジョークの心得三か条:
1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。
 2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。
 3. ジョークは簡潔が至上です。

緊急寄稿

トランプの勝利を斜めに見れば

JLC 代表 宮本倫好



カード・ゲームのジョーカー

次期米大統領トランプ氏は、まるでカード・ゲームのジョーカーです。使い方次第で、強力な万能カードに変身します。本会の名編集長で、ちょっと厳しい某氏（特に名を秘す）は私に、「ジョークの会らしいトランプ論を書け」と命じてきました。きっと「この曲者ジョーカーの実像にどう迫れるか、お手並み拝見」と考えたのでしょう。本来ならくじけそうになるこの命令に、高齢の私は何故か食欲が亢進し、ぐっすり眠れるようになり、通じさえ良くなりました。快食、快眠、快便です。やってみなければ、自分の気分さえまったく予想がつかないのが人間です。「あれよ、あれよ」のトランプ氏も、きっと日々新しい自分を再発見していることでしょう。そこらを読み切って執筆を命じた某編集長は、ヤッパ偉い！

自分の首を絞めた米メディア

米国メディアの予想はなぜ見事に外れたのでしょうか。それをそっくり書き写して送る日本のメディアが誤るのは当然ですから、日本の読者は皆、トランプ・カードの王様ぐらいにしか思っていなかった人が、ある日突然本物の王

様になったのですから、びっくり仰天したのも無理からぬところですよ。

商業メディアの宿命は、判断基準が「オモロイか、オモロクナイか」の一点です。その意味で、トランプは最初からオモロかった。お高く構え、クソ真面目に正論らしきものを吐くクリントンと好対照です。「メキシコ国境に万里の長城を築く。その経費を払うのはメキシコ政府だ」「自前で自国を防衛させるために、日本、韓国の核武装賛成」「女性に手を出すのは男の甲斐性。ワシもずいぶんやった」「クリントンはウォール街から金を集めまくった。ワシは全部自前だ」etc.。これが超大国の親玉を決める今度の選挙の実態だったのです。

メディアはその度に「この世間知らずのバカが」と思いながら書きまくり、ワイドショーで流しまくった。おかげで彼の主張は全米の隅々に無料で浸透しました。「米国は優れた将官と劣った兵の二極社会。日本は優秀な将官と劣等兵がなく、粒の揃った下士官の社会」と喝破したのは司馬遼太郎でした。このトランプの単純明快な主張は、優秀な指導者階級からは軽蔑を呼びましたが、単純で低レベルの大衆は喝采しました。米国流民主主義なるも

のは、候補者が立派かどうかなどは無関係に、人気者が勝つ仕組みです。メディアはバカにしたトランプが勝って恥をかき、自分の首を絞めました。しかし世間は勝てば官軍。負けた方が翌日からすり寄ってくるのが常道で、今やトランプは我が世の春。もう笑いが止まらない。

我が下士官社会の代表・安倍総理。見通しも甘かったが立ち直りも早かった。ケロリとして歯の浮くような電話を入れました。この日、勝利の美酒の二日酔いもまだ冷めやらぬトランプ帝は叡感斜めならず。首相にトランプ城一番乗りの榮譽を与えました。「フン、三流の俳優上りが」と散々コケにされたレーガンが、終わってみれば歴史に残る名大統領と讃えられた例もあります。米国に三顧の礼を取り続けてきた日本代表としては、ここは保険を手厚く掛けるにしくはありません。外交は商売です。

仮説「トランプは大阪人」

実は私は「トランプはひょっとしたら大阪商人の生まれ変わりではないか」と密かに思っています。これは我ながら卓見ですが、さすがに読者数ウン十人、原稿料無料の本会報のようなものにしか書く勇気がありません。その代わり、トランプの滅茶苦茶さに一脈通じる奔放な記述である点を買って頂いて、どうかご容赦を。

「権威におもねらず、自らを^{たの}待み、自らを助くるひたぶるの町人心こそ、大阪の生命である」とは日本経済史家・宮本又次の説です。これぞトランプ精神でしょう。「政治経験がない、軍隊経験がない、それがどうした。損得が分かれば良いのじゃ」と自力だけを信じる。西鶴も『世間胸算用』で「面々の知恵才覚を以て稼ぎ出しせば、その家栄ゆるぞかし」と説いています。

「それに比べ、頭も体も使わず、社会保障など

を食い物にする連中は許し難し」とトランプは怒鳴ります。「TPPも儲からん。こっちが損するだけじゃ」と明快ですね。

大体「ガッコアタマ(学校頭)は役にたたん」と大阪では昔から言ってきました。高学歴で超エリートのはりーは、負け犬の心が分からない。何回も倒産したトランプは二枚腰で、徳俵に足がかかっても、生きた経済で培ったド根性で、ひたすら押し返します。ついには花の都のニューヨークで、トランプ城の城主になった。今度の選挙も二枚腰でした。無学の裸一貫から、大坂城主になった太閤秀吉の心意気にも通じる話ではありませんか。

「東京はアングロサクソン系で、大阪はラテン系」とは大阪が生んだ作家・藤本義一の説です。アングロサクソンはカッコよく理想を語り、ラテンは本音で生活第一。この二分法は今度の米国大統領選にも当てはまり、クリントンは東部を中心としたエスタブリッシュメントの秩序や政策、すなわち米国の理念を代表しました。一方トランプは、ラテン系中心の白人労働者階級の思うところ、すなわち日々の^{かた}糧を至上としたのです。

トランプのキャッチフレーズのように、大阪の看板はユニークでどぎつい。ある時「万古」という喫茶店ができたなら、その前に「珍古」という喫茶店兼麻雀屋が開店し、「互いに入出入りを満喫する客」で大人気になったといえます。夜の道頓堀の直截的な看板も、あたりを圧していて、性の礼賛も食の賛美も、そのものずばりです。言いたいことを次々どぎつく言い放ったトランプは、大阪の伝統風土にドンピシャリですね。

戦後間もなく「未亡人サロン」を始めたのも大阪です。戦争未亡人が孤閨で身もだえし

ているんじゃないか、とスケベな大阪男が考えそうなことを先取りした絶妙なネーミングでした。夜七時までは飲み放題で、一分でも過ぎたら料金は跳ね上がる仕組みですが、七時までに帰った客はいなかった。そこでチェーン店を続々出そうとしましたが、さすがの大阪人も「そんなに若い未亡人がゴロゴロおるわけないやろ」で、ピンクサロン、アルバイトサロンなどが代わって輩出しました。しかし最初の命名程の衝撃はなく、次第に廃れました。

メキシコ国境の万里の長城案は大阪人顔負けの突飛なアイデアですが、最後は未亡人サロンのように消え去るのでは。「でも余人にできない派手な問題提起は、皆さんを楽しませただけで、よろしゅうおましたがな」と、大阪人はトランプに余裕の拍手をしましょう。

大阪商人は「果報は寝て待て」を排します。「果報は捏^ねって待て」だと藤本義一は言います。寝ている間にも頭の中であれこれ熟考して実行するのです。それを安全保障まで人任せの国や、才覚、分別、努力を棚上げし、国家や他人任せの失業者などトランプは許さない。

そういえば、トランプは風貌も、何やら昔の関西の代表的芸人アチャコに似てきましたなあ。アチャコといえば、戦時中軍部の干渉でカタカナの芸名は外国の匂いがすると、全部漢字に変えさせられた。例えば関東の役者でロッパは緑波に、エノケンは榎健に。しかし、アチャコだけは「メチャクチャでゴザリマスルガナ」という決め台詞^{ぎりふ}を吐くばかりでどうにもならず、結果的に軍部もさじを投げたそうです。さすが大阪芸人、主体性を最後まで保ったところが偉かった。トランプさんも、簡単に妥協しないところを見習わなければね。大阪にはポピュリストでお騒がせな元府知事・橋下徹がいます。私の

「トランプ大阪人論」が事前に漏れ、朝日新聞が大あわてに日曜版で橋本を取り上げ、トランプとの共通性を語らせました。

トランプは劇場で二体の「観音様」を拝んで撫でた

大阪漫才や上方落語の特徴は、徹底的に自分をコケにして笑い飛ばすことです。トランプ現象は米国で無数のジョークを生みました。そこらはやっぱりジョークの本場やね。大阪人も真っ青や。本稿の締めのお口直しに、トランプ・ジョークをお一つ。やはり私は関西人の本性が出て、シモネッタ風な選択になりましたが、どうかご寛恕を。

The head usher at the Metropolitan Opera House was quite surprised. One middle aged lady whispered in his ear, "Sir, I believe I was sexually harassed!" Soon a second little lady whispered, "Sir, I believe I was sexually harassed, too!" He found one old man crawling along the opera house floor underneath the seats and stooped down to question him.

"Excuse me, sir, can I help you?" A bald Donald Trump looked up and said, "Well, you sure can. I've lost my toupee and I'm trying to find it. I thought I'd found it twice, but they were both parted in the middle...and mine's parted on the side!"

(トランプさん、やっぱり有権者をだますカツラやったんやね。あなたは選挙区なる劇場で、下から目線で何を見つけ、それをどう手探ったのか、それがどうしてセクハラなのかが、このジョークのミソやね。注・上のゴチック・小見出し参照)



第58回研究発表会

IS IT A JOKE OR A QUIZ?

岡田 茂富



Why did the police officer smell?

Because he was on duty.

これは有名なジョークですが、一読してこのジョークのオチがお分かりになるでしょうか。インターネットで英語のジョークを読んでいると、オチのわからないジョークがかなりたくさんあります。

というわけで、Is it a Joke or a Quiz? と題して、頭をひねらなければわからない、あるいは頭をひねってもわからないジョークを 50 ばかり集めて、賢明なるジョークの会員の皆様にそれぞれのパンチラインを考えてもらおうとしたわけです。

私としては、

How do you make a blonde laugh on Monday morning?

Tell her a joke on Friday night.

というブロード・ジョークに付け加えて

Then tell me a joke on Friday night.

Often times I may be still thinking on Monday morning, sometimes with no end. と言いたくなる気持ちが強いのです。

さて冒頭のジョークのオチは何だとお考えですか。最初私は on booty かな、と考えたのですが、a booty call ということばもありますが、でもこれはちょっと on duty から離れすぎる。では on dootie ではないか。dootie は (=feces 糞便) とありますし、dootie bags は犬の糞を始末するための袋のことだそうですし、

なお、A booty call といえば、ジョーク Mind if my sous chef watches? は、a gourmet booty call (おいしくするため、副料理長に見てもらおう)だと書かれていますね。

A plateau is the highest form of flattery.

これは plateau (高原) を flattery (お世辞) の flat (平な) と対比して、もっとも高く持ち上げるものとの一般的な解釈に、小池温会員から含蓄のある解釈を教えてくださいました。a plateau とは、名刺を受けるための飾り盆のことを言うそうです。これを差し出すことは最高の阿諛追従となる、というわけです。

What did the fish say when he swam into the wall?

Dam.

Damn. みなさん、楽勝でした。

A horse walks into a bar. The bartender says, "Hey." The horse says, "You read my mind, buddy."

今井真由美・田上悦子・横堀ゆみの女性会員トリオから、すかさず Hay と一言。出題者の心を読まれましたね。

A vulture boards a plane carrying two dead raccoons. The stewardess says, "I'm sorry, but we only allow one passenger one carrion."

これも簡単に当てられました。(carrion 腐肉と carry-on baggage 機内持ち込み手荷物)

A roman walks into a bar and asks for a

martinus. "You mean a martini?" the bartender asks. The Roman replies, "If I wanted a double, I would have asked for it!" Another Roman walks into a bar, and hold up two fingers, and says, "Five beers, please.

同じくこれもすぐ当てられました。Martini は複数、その単数形は Martinus です。ローマ人は一杯注文するつもりで正確に a martinus といいました。もう一人のローマ人は2本指を上げて、V字型、これってご存知のようにローマ数字で5を表します。

When I bought beer at the grocery store, the clerk asked for my birthdate. I said, "10-3-60."

Her next question: "Is that '19' 60?"

これは会場からのご意見によれば、1960年生まれなら、50歳に近いはず。確認する必要がないのにするのがおかしいというわけです。

What do you call two crows on a branch?

Attempted murder. は難しかったですね。

A murder of crows (カラスの群れ) になりそこない、というわけです。

もうひとつ難しかったのは、

Q: If there's H2O on the inside of a fire hydrant, what's on the outside? A: K9P.

(ケイナインピー、犬のションベン) でした。canine pee. ということです。

皆さんによって見事に当てられたジョークは、

When a woman applies for a job at a citrus grove, the foreman asks, "Do you have any experience picking lemons?" "Well," she answers, "I've been divorced three times." lemons は欠陥品のことですね。

Q: How do you make a sausage roll?

A: Push it!

これも会員の方から教えられました。ソーセージ入りロールパンの作り方を質問したのに、sausage roll の roll を動詞とみて「押せばいい」と答えたのですね。

その他私のわからなかったジョークも沢山会員の皆様から教えていただきました。

A man asks a farmer near a field, "Sorry sir, would you mind if I crossed your field instead of going around it? You see, I have to catch the 4:23 train." The farmer says, "Sure, go right ahead. And if my bull sees you, you'll even catch the 4:11 one."

牛が突進して追いかけてくると想像できませんでした。

What did the blonde say after college?

"Will that be paper or plastic?"

紙袋にしますか、ビニール袋にしますか、と訊くスーパーの店員になるという意味なんですね。

Two men walk into a bar. You'd think at least one of them would have ducked. (二人とも棒に当たるなんて。一人はよけられたはず)

A penguin walks into a bar, goes to the counter, and asks the bartender,

"Have you seen my brother?" The bartender says, "I don't know. What does he look like?"

ペンギンなんだから、どんな顔つきをしていたか、訊かなくてもわかるだろう。

Doctor: "I'm sorry but you suffer from a terminal illness and have only 10 to live."

Patient: "What do you mean, 10? 10 what? Months? Weeks?!"

Doctor: "Nine."

お医者さんが月とも週とも答えられないのは、秒だからではないでしょうか。10, 9, a German doctor ではないかって? Nein.

Why do you mean, I didn't win? I ate more wet T-shirts than anyone else. はどうでしょうか。

私の苦しい解釈は、アメリカには wet T-shirt contests というものがあります(白いTシャツ姿の若い女性の胸に水をかけるやつです)。一方、eat one's shirt は eat one's words と同じ意味があり、食言することですね。他の誰よりも多くの女性の胸に水を書けたと主張しても、それが食言であれば勝てないわけです。(ちょっとこの解釈、あやしいな)

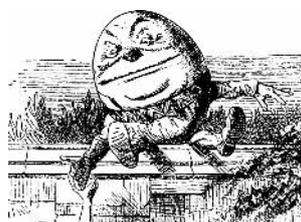
さてもうひとつみなさんが首をひねったジョーク **"I hate audio correct."** の私の答えは、①コンピュータには文字入力するさいに自訂正する auto correct という機能がありますね。これが音声で訂正されるのはいやだ。②自分の声を録音して聞くとまるで知らない人の声のように聞こえるのがきらい。みなさんはどうお考えでしょうか。

英語のジョークは幅が広く、今回はクイズではないかと思われるジョークを集めました、その他さまざまなジョークがありますね。そのようなわけで、英語のジョークを読むのは頭の体操になり、英語の勉強になり、ボケ防止になりますから、おおいにジョークに親しみましょう。

★ストーンと決まったジョークはもちろん大好き。でもそれだけじゃこの世界は窮屈だ。どこが笑えるの、なんとなくしまらないな、一くふう足りないね。こんなB級ジョークもあればこそ、豊穡なジョーク界は生まれます。 (S)

ALICE'S ADVENTURES IN WONDERLAND

Illustrated by Sir John Tenniel



(to be continued to p. 8)



第34回ジョーク・コンテスト

MCの記

相原 悦夫



第45代米大統領選の衝撃的な結果判明後の第34回ジョーク・コンテストで、久しぶりのMCを仰せつかり、緊張のもと、まず時間を念頭に短い「まくら」と思い、“人生には三つの坂があると言われます。一つは上り坂、二つ目が下り坂、三つ目は何でしょう？”とのMCの質問に、すかさず“ま・さ・か”と多数の参加者からの回答で質問が易し過ぎたと後悔しつつ、それでは“まさかの坂”をダイゴ風に言うか？・・・“O.M.G.Hill”と言います。“Oh, My God!! Hill” オソマツ！

今回は試験的にルールを若干変えて、“挙手によるVBDとVADを従来一人三回だったものを四回にし、同点の場合は語数の少ない方を上位とする”ということでコンテストを開始させて頂きました。

回を追うごとに傑作作品が増加かつ高度になりましたので、入賞機会が増えるよう配慮されたものでした。

恒例に従い最初は16作品を拙いジャパニーズ発音で紹介し、トランプ新大統領当選で多くの関連ジョークが予想されましたが、三作品でした。締め切り期日との関連だったかも知れません。第一回目の解説なしのVAD、第二回の質疑・解説後のVADを経て最終採点が集計されました。

村井さんの禁漁区対策作品は、釣り人会員が少なく残念。佐川さんのバグパイプは勘違いで

1点の憂き目。豊田さんの作品は女の戦いに敗退。小池さんの作品「間抜けな泥棒」が最初の10点越え。小生が出品した「主婦の長い一日はパンチが弱く低迷」。

三田さんのトランプ・ジョーク一番手は、現代社会の抱える課題と新大統領をカードに置き換える絶妙の作品と見えましたが、評価が行き届かず、一方、トランプ・ジョークの二番手「メキシコにトランプ壁を越える梯子の新規市場を創造する」との草野さん作品が高得点。三番手岡田さんのトランプ・ジョークに至っては、前段のご本人講演「Is it a Joke or a Quiz？」の賞賛度に比べ空振りに終わり残念でした。

「Romeo & Juliet」モノは Confidence を Conference, Indite を Invite と読み直しても何故これがジョークなのか、佐川さんの解説を得ても難解で、得点に至らず、新年会へ持ち越しとなりました。

田上さんの「How many people work in your office? About half of them.」は今回出品作品中で最小語数で最高の出来。MC賞ものでした。最近の過重労働で摘発された経営者へ贈りたいジョークです。

深澤さんの作品は第四位でしたが、艶物ジョークの座を脅かす出来。服部さんの作品は切れ味鋭く上位常連に相応しく第一位。おめでとうございます。中嶋さんのドクター・モノ作品

は惜しくも一位を逃しましたが秀逸ブラックジョークに任命されました。(独断的?)

今井さんの Company では終業時に「鐘」が鳴るのでしょうか。(ラ・カンパネッラ??)

宮本会長の作品はトリを勤めるに値するものでしたが、批判票が予想外だったでしょうか?

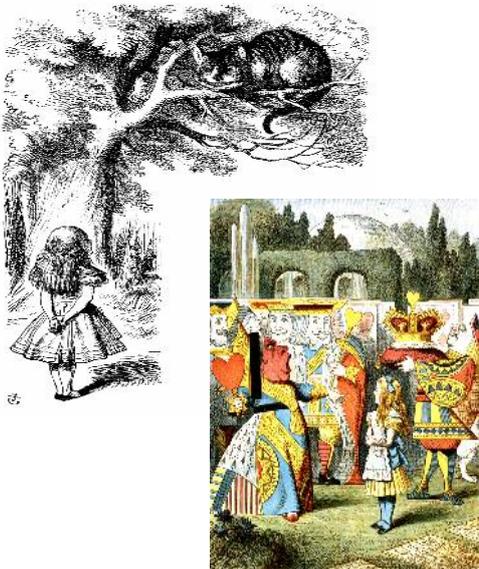
いつも作品にぴったりの素晴らしい挿絵を搾り出してくださるプロ挿絵師、佐川さんに感謝!!

そして楽しく英語の勉強が出来る午後の時間を MC として過ごす事ができ、ありがとうございました。

皆様に感謝致します。

ALICE'S ADVENTURES IN WONDERLAND

(continued from p.6)



第 59 回研究発表会/2017 新年会 ご案内

会員各位のご参加をお待ちします。まだ会員になっておられない方もどうぞ。

会場が変更されていますので、ご注意ください。

- 日時: **2017 年 1 月 21 日 (土)**
14:00~16:00
- 会場: **銀座ライオン渋谷マークシティ店**
(渋谷区道玄坂 1-12-5 渋谷マークシティ 4 階)
電話: **050-5788-0421**
「渋谷マークシティ」は、京王井の頭線渋谷駅の上にあります。
- プログラム
企画&総合司会 = 中嶋秀隆会員
① 新年のご挨拶と乾杯 = 宮本倫好代表
② 2016 年 MVP 表彰式
(受賞者には巨万の富が当たる可能性のある宝くじが贈られます。)
司会 = 安藤雅彦会員
③ 初笑いショート・スピーチ (全員)
司会 = 今井真由美会員
(お一人 3 分前後。必要に応じて、ハンドアウトをご準備ください。)
- 参加費: 会員・非会員とも **3,000 円**
(新年懇親会費 2,500 円 + 運営費 500 円)
- 問合せ先: renraku@eigojoker.com
参加申し込み締め切り: 2017 年 1 月 14 日 (土)

WE, JOKERS No.58

英語のジョークを楽しむ会 (Joke-Loving Club) 会報

- 発行日: 2016 年 12 月 10 日
- 発行人: 世話人代表 宮本倫好
- 編集人: 佐川光徳
- 連絡先: jlcweb-renraku@eigojoker.com